九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

大学生同士の聞き手待遇に関する日韓対照研究 ： 基本的スピーチレベルを選択する際の会話をもとに

金，兌妍
九州大学大学院地球社会統合科学府 ： 博士後期課程

松村，瑞子
九州大学大学院言語文化研究院 ： 教授

https://doi.org/10.15017/2560388

出版情報：言語文化論究. 44, pp.47-65, 2020-03-13. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

大学生同士の聞き手待遇に関する日韓対照研究
――基本的スピーチレベルを選択する際の会話をもとに――

金　　兌妍[1]・松村　瑞子

1．はじめに

現代日本語で敬語は敬意そのものを表すことは少なく、上下・親疎・恩恵の授受等々の関係を表す時に用いられる（辻村 1977）。「上位待遇」とは、相手や話題の人物を上位者、優位者、恩恵者、疎遠者等、敬語的に上位として扱うことを意味する。つまり、実際の会話で敬語表現を用いるということは、相手を敬語的上位者として待遇するということである。待遇表現の一つとされる「スピーチレベル」はいわゆる対者敬語のことで、日本語と韓国語ともに文を「丁寧体（敬体）」と「普通体（常体）」に分類できる[2]。「基本的スピーチレベル」とは話者が相手に対して選択した基本になるスピーチレベルのことで（三牧 2002）、日本語と韓国語の初対面の会話では通常、丁寧体が選択される。その後、相手の社会的地位や、年齢、親疎などをもとに普通体に変わることもある。基本的スピーチレベルは相手に対する待遇表現であり、会話参加者間の基本的スピーチレベルを見ると互いの上下・親疎・恩恵の授受等々の関係を読みとることができる。では、日本人大学生同士と韓国人大学生同士は相手をどのように待遇しているのだろうか。また、相手に対する基本的スピーチレベルを選択する際には何を基準にしているのだろうか。荻野他（1990）は、日本人大学生と韓国人大学生の相手に対する待遇状況を調べるために意識調査を行った。その結果、日本人大学生は上級生には丁寧な表現を用い、年上の同級生には丁寧でない表現を用いたという。それに対し、韓国人大学生は上級生と年上の同級生に丁寧な表現を用いた。この結果からは、初対面会話で日本人大学生は「学年」、韓国人大学生は「学年」と「年齢」をもとに基本的スピーチレベルを選択することが予測できる。それならば、日本人大学生は基本的スピーチレベルを選択する際に相手の「年齢」は考慮しないだろうか。また、韓国人大学生は「年上の同級生」、「年上の下級生」、「同年齢の上級生」、「同年齢の下級生」、「年下の上級生」、「年下の同級生」との会話で「学年」あるいは「年齢」のどちらの基準を優先するだろうか。本稿では、「学年」や「年齢」を定めていない大学生同士の会話をもとに、日本人大学生同士と韓国人大学生同士が初対面場面で基本的スピーチレベルを選択する際に何を基準にするかを明らかにする。また、日本人大学生同士と韓国人大学生同士が基本的スピーチレベルを選択する際の言語行動を対照し、意識調査では明らかにされていないそれぞれの社会や文化的特徴についても考察する。

なお、本稿では、会話する２人の対等な関係を「同等関係」、対等ではなく差がある関係を「上下関係」と呼ぶ。また、同等関係の相手を「同等者」、上下関係の場合は「上位者」、「下位者」と呼ぶ。

2．先行研究

近年のスピーチレベル研究では、母語話者の自然なスピーチレベルを明らかにするために、実際の会話を用いるものが多い。多くの調査者は、直接会話を収集し、母語話者の同等関係でのスピーチレベル使用と上下関係でのスピーチレベル使用を比較する方法を用いている。つまり、調査者が会話を取る際には、会話参加者２人が同等関係、上下関係になるように注意を払っている。本章では、先行研究での会話参加者２人の情報を対照し、これまでどのような基準によって大学生同士の同等関係と上下関係が定められたか確認する。表１は、先行研究に見られる参加者間の情報である。なお、本稿では男女差は分析対象としない。

表１の参加者情報を対照すると、各研究で調査者が設定した日本人大学生同士の同等関係と上下関係を分ける基準に違いが見られる。三牧（2002）は日本人大学生同士の同等関係と上下関係に「学年」という基準を適用している。これは荻野他（1990）の分析結果と一致している。それに対し、宇佐美（1995）と金珍娥（2002）の日本人大学生同士の同等関係と上下関係を分ける基準は「年齢」である。会話参加者の「学年」と「年齢」が一致すれば、どちらを基準にしても問題はないが、「学年」と「年齢」が一致しない会話参加者がいる場合には問題が生じる。例えば、金珍娥（2002）はベースとなる24歳の日本人大学生の同等者として24歳の大学院生を設定した。この場合、「学年」という基準では上下関係、「年齢」という基準では同等関係と言える。また、宇佐美（1995）

表１　先行研究の同等関係と上下関係における参加者間の情報

	参加者	ベース	上位者	同等者	下位者
宇佐美（1995）	日本人	35歳大学院生（女）	55歳大学教師（女）	38歳大学院生（女）	28歳大学院生（女）
			39歳大学教官（男）	39歳大学院生（男）	27歳大学院生（男）
		39歳大学院生（男）	50歳大学教師（女）	35歳大学院生（女）	28歳大学院生（女）
			39歳大学教官（男）		未回答大学院生（男）
三牧（2002）	日本人	大学生	上級生	同級生	下級生
金珍娥（2002）	日本人	24歳大学生（女）	30歳大学院生（女）	24歳大学院生（女）	18歳大学生（女）
			31歳大学院生（男）	24歳大学院生（男）	18歳大学生（男）
	韓国人	24歳大学教務補佐員（女）	30歳図書館職員（女）	24歳大学院生（女）	19歳大学生（女）
			29歳大学生（男）	24歳大学生（男）	19歳大学生（男）
申媛善（2007）	日本人	24歳修士１年		24歳修士２年	
		23歳修士１年		23歳修士１年	
		24歳修士２年		24歳修士２年	
	韓国人	24歳修士１年		25歳修士１年	
		24歳修士２年		24歳研究生	
		27歳修士１年		27歳修士２年	
李恩美（2008）	日本人	35歳社会人（女） 35歳社会人（男）	45歳社会人（女） 45歳社会人（男）	35歳社会人（女） 35歳社会人（男）	25歳社会人（女） 25歳社会人（男）
	韓国人	35歳社会人（女） 35歳社会人（男）	45歳社会人（女） 45歳社会人（男）	35歳社会人（女） 35歳社会人（男）	25歳社会人（女） 25歳社会人（男）

先行研究をもとに筆者が作成

と金珍娥（2002）は日本人大学生の同等関係と上下関係を分ける基準を「年齢」にしている点は共通しているが、日本人大学生の同等関係の年齢設定について意見が分かれる。金珍娥（2002）はベースとなる人の同等者に同年齢の人、上位者に年上の人、下位者に年下の人を設定している。それに対し、宇佐美（1995）はベースとなる大学院生の同等者として３歳から４歳年上の人と４歳の年下の人を設定し、若干の年齢差を認めている[3]。３歳から４歳の年齢差がある人は、宇佐美（1995）では同等関係、金珍娥（2002）では上下関係であることになる。

以上、日本人大学生の同等関係と上下関係を分ける基準について述べた。それでは、韓国人大学生同士の同等関係と上下関係を分ける基準は「学年」あるいは「年齢」のどちらなのだろうか。表１の先行研究では、韓国人大学生同士を分析対象にしたものはなかった。しかし、金珍娥（2002）の会話参加者には大学生が含まれている。そこでベースとなる人は社会人である大学教務補佐員だが、その人の上位者と同等者には大学生が設定されている。おそらく、つまり、金珍娥（2002）は韓国人大学生同士の同等関係と上下関係を分ける基準を「年齢」と考えていると推察される。

申媛善（2007：175）は日本人大学生同士と韓国人大学生同士の同等関係を分ける際に「できるだけ年齢、学年において同等になるよう調整した」と述べ、日本人大学生と韓国人大学生の同等関係の基準に「学年」と「年齢」の２つの基準を設定している。しかし、日本人大学院生同士は学年が異なる会話があり、韓国人大学院生同士は年齢が異なる会話が見られる。李恩美（2008）は日本人社会人と韓国人社会人の同等関係と上下関係を分ける基準を「年齢」と設定している。

先行研究を対照すると、会話参加者間の同等関係と上下関係を分ける基準に対する考え方に共通点と相違点が見られる。その相違点からは、次のような課題が明らかになった。まず、日本人大学生と韓国人大学生の同等関係と上下関係を分ける基準は同じなのか異なるのか。次に、もし異なるなら、それぞれは「学年」あるいは「年齢」のどちらを基準にしているのか。それから、同等関係の基準である「学年」あるいは「年齢」という基準に若干の差は認められるのかどうか。スピーチレベル研究では、母語話者の自然な言語行動を明らかにするために、母語話者が同等関係と上下関係でスピーチレベルをどのように使い分けるかを分析する。仮に、調査者が同等関係として設定した会話参加者の２人が実際にはお互いを上下関係だと認識すると、誤った結果が導かれる恐れがある。そのため、会話参加者の２人が同等関係と上下関係になるように正確に分ける必要がある。本稿では、先行研究から浮かび上がったこのような課題も含め、大学生の同等関係と上下関係について明らかにする。

３．分析

3.1　分析資料

本稿で用いる会話資料は、奥山（2004）の付録、奥山洋子・泉千春資料であり、初対面の大学生２者間で行われた40分間の自然会話である。この会話資料には日本語母語話者同士16組（女性同士７組、男性同士９組）、韓国語母語話者同士26組（女性同士12組、男性同士14組）、計42組の会話が文字化されている。本稿の調査対象は大学生（大学院生を含む）だが、日本語母語話者同士の会話JM2のJM2Aは「博士満期退学研究者」であるため大学生とは言えず、今回の分析対象からはJM2を除外した。そのため、本稿で分析する会話は計41組の会話である。本稿は、日本人大学生同士と韓国人大学生同士の初対面場面で、相手に対する基本的スピーチレベルを選択する際の基準について分析を行う。参加者の学年や年齢等の情報を、表２と表３に示す。

表２　日本語の会話における参加者情報（15組）

会話	参加者	学年 / 年齢 / その他
JM1	JM1A	学部１年
	JM1B	学部４年
JM3	JM3A	学部１年
	JM3B	学部２年
JM4	JM4A	修士１年 / 23歳
	JM4B	学部４年 / 21歳
JM5	JM5A	学部４年
	JM5B	学部４年
JM6	JM6A	学部４年
	JM6B	学部４年
JM7	JM7A	学部４年
	JM7B	学部４年
JM8	JM8A	学部４年
	JM8B	学部３年
JM9	JM9A	学部４年
	JM9B	学部４年

会話	参加者	学年 / 年齢 / その他
JF1	JF1A	学部２年
	JF1B	学部１年
JF2	JF2A	18歳
	JF2B	20歳
JF3	JF3A	18歳
	JF3B	23歳
JF4	JF4A	博士２年
	JF4B	学部４年
JF5	JF5A	学部３年
	JF5B	学部４年
JF6	JF6A	学部４年
	JF6B	修士１年
JF7	JF7A	修士１年
	JF7B	学部１年

奥山（2004）をもとに筆者が作成

表３　韓国語の会話における参加者情報（26組）

会話	参加者	学年 / 年齢 / その他
KM1	KM1A	96年入学
	KM1B	2000入学
KM2	KM2A	98年入学
	KM2B	98年入学
KM3	KM3A	学部３年 /25歳
	KM3B	学部３年 /25歳
KM4	KM4A	学部４年 / 96年入学 / 77年生
	KM4B	学部３年 / 95年入学
KM5	KM5A	23歳 / 学部３年
	KM5B	24歳 / 学部３年
KM6	KM6A	学部３年 / 25歳
	KM6B	学部１年
KM7	KM7A	95年入学
	KM7B	99年入学
KM8	KM8A	学部２年 / B と同年齢
	KM8B	学部１年 / A と同年齢
KM9	KM9A	95年入学
	KM9B	2000年入学 / 学部１年
KM10	KM10A	2000年入学
	KM10B	99年入学
KM11	KM11A	96年入学
	KM11B	99年入学
KM12	KM12A	95年入学
	KM12B	99年入学 / 学部２年
KM13	KM13A	学部３年 /26歳
	KM13B	学部４年 /25歳 /95年入学

会話	参加者	学年 / 年齢 / その他
KM14	KM14A	26歳
	KM14B	25歳
KF1	KF1A	学部２年 / 78年生
	KF1B	学部２年 / 78年生
KF2	KF2A	学部２年 / 97年入学 / 21歳
	KF2B	95年入学
KF3	KF3A	学部２年 /78年生
	KF3B	学部２年 /76年生
KF4	KF4A	学部２年
	KF4B	学部２年
KF5	KF5A	学部２年 /77年生
	KF5B	学部３年 /77年生
KF6	KF6A	学部２年 /78年生
	KF6B	学部３年 /77年生
KF7	KF7A	学部２年
	KF7B	学部４年
KF8	KF8A	学部２年 /79年生
	KF8B	学部３年 /78年生
KF9	KF9A	学部２年
	KF9B	学部２年
KF10	KF10A	学部２年 /76年生
	KF10B	学部２年 /78年生
KF11	KF11A	学部２年 /23歳
	KF11B	学部２年 / 21歳 / 78年生
KF12	KF12A	76年生
	KF12B	78年生 / 学部２年 /97年入学

奥山（2004）をもとに筆者が作成

本稿の会話資料の使い方として、以下の３項目を設定する。

(1) 資料内には誤字と思われる箇所がある。実際の録音データでの確認ができないため、できるだけ元のデータをそのまま用いるが、その記録に大きな問題があると判断される場合は若干の修正を加える。

(2) 韓国語の会話には、複数名のネイティブチェックを受けて日本語訳を付けた。翻訳する際には、内容理解のために意訳した部分もあるが、文末の「丁寧体」と「普通体」の区別には注意を払っている。なお、韓国語の会話で敬語（尊敬語、謙譲語）が用いられている場合、その日本語訳が多少不自然でも敬語表現を用いて翻訳している。

(3) 会話を提示する際に、同じような会話例がいくつかあった場合は，その中の１例のみ紹介する。

3.2　分析方法

まず、日韓大学生の基本的スピーチレベルの選択基準を観察するために、会話参加者２人が確認した「学年」や「年齢」などの情報を日本語と韓国語に分類し、表にまとめる。そうすることで、日本人大学生と韓国人大学生の言語行動を比較できると考える。次に、基本的スピーチレベルに変化が見られた16組（日本語の会話９組、韓国語の会話７組）の会話をもとに、日本人大学生と韓国人大学生が基本的スピーチレベルを選択する際の会話を詳しく分析する。スピーチレベルは、先行研究を踏まえたうえで「丁寧体」と「普通体」に分類する。文を最後まで言い切っておらず丁寧体か普通体か判断できない「中途終了型発話」は分析対象としない。会話を提示する際には、分析に関連する発話の前に矢印（→）を付ける。複数の発話について言及する場合は、矢印（→）の前に①、②などの番号を付け、発話の部分に下線を付す。表４は日本語と韓国語のスピーチレベルの分類基準である。

表４　日本語と韓国語のスピーチレベルの分類基準

文　末	日本語	韓国語
丁寧体	デス・マス形式	hapnita・hayyo 形式[4]
普通体	ダ・デアル形式	hay・hanta 形式
中途終了型発話	文を最後まで言い切っていないため形式が把握できないもの	

４．分析結果

4.1　初対面で確認される「学年」や「年齢」に関する情報

日本人大学生と韓国人大学生が初対面で確認した相手情報は、大きく「学年」と「年齢」に分けられる。しかし、韓国語の会話では「学年」と「年齢」以外にも、さらに詳しい情報である「大学の入学年度」と「生まれ年」についての話題が見られたため、その２つの項目も追加した。以下の表５と表６は、日本語と韓国語の各会話で確認された相手の「学年」や「年齢」の情報を示したものである。

表５と表６からは、日本人大学生と韓国人大学生は初対面の相手との会話で「学年」もしくは「年齢」を確認していることがわかる。日本人大学生同士と韓国人大学生同士の会話ではともに、初対面の相手が自分と同等関係なのか上下関係なのかについて意識していると言えよう。

表５　日本人大学生が確認した相手情報

日本語	学年	入学年	年齢	生まれ年
JM1	○			
JM3	○			
JM4	○		○	
JM5	○			
JM6	○			
JM7	○			
JM8	○			
JM9	○			

日本語	学年	入学年	年齢	生まれ年
JF1	○			
JF2			○	
JF3			○	
JF4	○			
JF5	○			
JF6	○			
JF7	○			

表６　韓国人大学生が確認した相手情報

韓国語	学年	入学年	年齢	生まれ年
KM1		○		
KM2		○		○
KM3	○		○	
KM4	○	○		○
KM5	○		○	
KM6	○		○	
KM7	○	○		
KM8	○	○	○	
KM9		○		
KM10		○		
KM11		○		
KM12	○	○		
KM13	○	○	○	

韓国語	学年	入学年	年齢	生まれ年
KM14	○		○	
KF1	○			○
KF2	○	○	○	
KF3	○			
KF4	○			○
KF5	○	○		○
KF6	○			○
KF7	○			
KF8	○		○	○
KF9	○			
KF10	○			○
KF11	○		○	○
KF12	○	○		○

4.1.1　日本人大学生同士は「学年」

表５を見ると、日本人大学生同士の会話で最も多く確認された相手情報は「学年」である（15組中13組）。その中には「年齢」が確認されている会話（JF2、JF3、JM4）も見られるが、「学年」を確認している会話のほうが圧倒的に多い。また、日本人大学生同士は、相手の「学年」か「年齢」の一方が確認できれば、それ以上の情報について質問する場面はほとんどなかった。「学年」と「年齢」の双方を確認した会話はJM4のみである[5]。日本人大学生の多くは、基本的スピーチレベルを選択する際、相手と自分が同等関係か上下関係か確認できる一件の情報がわかれば、それ以上の情報については求めないことが読み取れる。会話１は日本人大学生同士が互いの「学年」を確認する場面の会話である。日本人大学生は「学年」をもとに基本的スピーチレベルを選択している。

【会話１】
JF5B: そうですかー。え、何年生ー？
JF5A: 今３年生です。
JF5B: 私４年生なんですけど。
JF5A: じゃ、○○ちゃんとか、違う？

JF5B: ○○ちゃん？
JF5A: 違います？ 文学部だったら、文学部の友達っていったら１人しかいなくて。中国文学をやっている人がいるから。
JF5B: その子は３年生？
JF5A: ４年生です。私、留年しちゃったんですよ。
JF5B: あ、はいはいはい。中国文学だったら○○ちゃんとかだったら知ってるけど。
JF5A: でも、文学部人多いですよねー。
JF5B: ○○ちゃんか上の名前は？
JF5A: ○○っていうんですけど。
JF5B: あー、じゃー、○○さんかー、なんかたぶん３組だから。私２組で。ちょっとわからないかなって感じ。
JF5A: 文学部の男女の割合ってどれくらいなんですか？

4.1.2 韓国人大学生同士は「年齢」

表６を見ると、韓国人大学生同士の会話では日本人大学生同士の会話より確認項目が多いことが分かる。韓国人大学生同士の会話でも相手の「学年」という情報が最も多く確認されたが、相手の「学年」と「年齢」の双方の情報が確認された会話では、相手の「学年」ではなく「年齢」によって基本的スピーチレベルが選択された。また、韓国人大学生同士の会話では「学年」と「年齢」以外に、さらに具体的な情報である「入学年度」や「生まれ年」についても確認され、「年齢」に関する情報をもとに相手に対する基本的スピーチレベルが選択された。会話２は韓国人大学生同士が互いの「年齢」、「学年」、「入学年度」を確認する場面の会話である。韓国人大学生は「年齢」をもとに基本的スピーチレベルを選択している。

【会話２】
KF11A: 아. 예. 몇 학년이세요？（あ。はい。何年生でしょうか？）
KF11B: 2학년이요.（２年生です。）
KF11A: 그럼 나이가 어떻게 되죠？（じゃ、年齢はどうなりますか？）
KF11B: 어～전 원래 78년생. 스물 하나 거든요. 근데 79년 스물. 하하（ああ、私はもともと78年生。21なんですよ。でも79年生20。ハハ。）
KF11A: 제 동생하고 똑같네요.（私の下の兄弟と同じですね。）
KF11B: 학년이 어떻게 되세요？（学年はどうなりますか？）
KF11A: 저는 학년은 2학년인데요. 나이는 좀 많아요. 전 스물 세 살이구요.（私は学年は２年生なんですけど。年齢はちょっと多いです。私は23歳なんです。）
KF11B: 휴학하신 것 같아요？（休学されたと思いますけど）
KF11A: 아니요. 좀 늦게 들어왔어요. 학교를. 우리 학교 어때요？（いいえ。少し遅れて入りました。学校を。うちの学校、どうですか？）
〈中略〉
KF11A: 춘인에 한번 갔다 왔. 아니 강촌에 한번 갔다 왔고 그리고 인천 바다 그 지저분한 바다를 보고 왔지. 월미도 간다고 갔다 오고 친구가 강릉에서 학교를 강릉에 있는 학교를 다니는데 걔는 바다 지겹

대.（チュンインに一回行って来。いや、江村に一回行って来たし、そして仁川の海、あの汚い海を見てきたよ。島行くと言って、行ってきて、友達が江陵で学校を江陵にある学校に通うけど、あの子は海見飽きたって。）
KF11B: 지겹대요? 나도 보고 싶어 가지고 막.（見飽きたですって？ 私も見たくてそれで。）
KF11A: 걔는 학교에서 나가면 바다라고 그러대.（あの子は学校から出ると海だと言ってた。）
KF11B: 어디 다니는 거예요? 학교를.（どこに通っているんですか？ 学校を。）
KF11A: 나 잘 몰라 이름은.（私よくわからない。名前は。）

本節では、日本人大学生と韓国人大学生が初対面の会話で基本的スピーチレベルを選択する際に確認された「学年」や「年齢」などの情報について調べた。その結果、日本語の会話では主に「学年」が確認され、「学年」をもとに基本的スピーチレベルが選択された。一方、韓国語の会話では「学年」と「年齢」、年齢に関わるその他の複数の情報が確認され、「年齢」によって基本的スピーチレベルが選択された。

4.2 基本的スピーチレベルを選択する際のさらなる基準

日本人大学生と韓国人大学生は、初対面相手の「学年」や「年齢」を確認する。その後、それぞれの基準にしたがって、必要があれば基本的スピーチレベルを変化させる。本稿の会話では、相手の「学年」や「年齢」を確認した後、基本的スピーチレベルの選択を試みず、丁寧体が維持される会話が多かった（日本語の会話15組中６組、韓国語の会話26組中19組）。その理由は、おそらく、会話参加者２人にとって今後の関係が見通せない１回きりの40分間の会話時間が、基本的スピーチレベルを変化させるのに十分な時間ではなかったのではないかと推測される。しかし、本稿の会話では会話参加者２人が基本的スピーチレベルを普通体に変化させた会話も少なからずあった。日本語の会話９組（同等関係 JM6、JM7、上下関係 JF1、JF2、JF4、JF5、JF6、JF7、JM8）と韓国語の会話７組（同等関係 KF1、KF9、上下関係 KF2、KF7、KF8、KF11、KF12）である。本節では、この16組の会話を分析する。

基本的スピーチレベルに変化が見られたほとんどの会話では、日本人大学生同士は「学年」、韓国人は「年齢」が重視され、それに相応するスピーチレベルが選択された（日本語の会話９組中８組、韓国語の会話７組中７組）。しかし、日本語の会話では「学年」、韓国語の会話では「年齢」が基本的スピーチレベルを選択する基準であると一概には言えない状況での会話があった。日本語の会話では、「学年」が異なる２人が共に普通体を選択して同等関係のように話す例（会話３）があった。韓国語の会話では、年齢が異なるにも関わらず同等関係として認められた例（会話４）、また「同年齢」にも関わらず上下関係になった例（会話５）があった。これらの会話からは、日本人大学生と韓国人大学生の同等関係と上下関係に対する相反する考えが読み取れる。

4.2.1 日本人大学生にとって「学年」は絶対的な選択基準ではない

日本人大学生同士の会話では、基本的スピーチレベルが変化した９組中、８組が「学年」に相応するスピーチレベルを選択した。同学年同士の２人はともに普通体を選択し、異学年同士の上位者は普通体、下位者は丁寧体を選択している。日本人大学生の多くは基本的スピーチレベルを選択する際に「学年」を優先していると言える。しかし、「異学年」の２人がともに普通体を選択した会話が１例（JF1）存在した。なお、本稿の会話ではこのような例は異学年11組中１組のみだったが、三

牧（2002）では異学年18組中３組存在した。会話３は日本語での異学年同士の会話で、会話参加者２人がともに普通体を選択した会話例である。

【会話３】
①→JF1A: あ、今、２年生。
②→JF1B: 私、１年生。
JF1A: そうなんだ。じゃあ、これから留学とかされるんですか？
JF1B: あ、したいですね。
〈中略〉
JF1B: 私はアメリカは高校の時に２週間だけ行ったことがあります。
③→JF1A: お、いいよね？ アメリカは。
JF1B: いいですよね。
JF1A: え、アメリカのどこの州？
JF1B: オレゴン州。シアトルとか。私はアイダホ州なんですけど、オレゴン州とか、シアトルとかに研修期間中に別に行ってよかったのね。その時に友達が殺されそうになったりして…。
④→JF1A: なんか。治安が悪いと思わない？
〈中略〉
JF1A: えーいいな。オーストラリア。え、コアラとか→？
JF1B: コアラ抱きましたよ。かわいい。
JF1A: 抱く力が強い、とか言って。
⑤→JF1B: なんかぬいぐるみって感じなの。
JF1A: かわいい。外国はどこに？ どっか他に？
JF1B: 私はイギリスに旅行に行っただけ。
〈中略〉
JF1A: だから、うちの大学ってそんな広くないと思うけど
⑥→JF1B: ほんとうに？ じゃあ、A大に来たら、え？ なに？ って思うかもしれない。
JF1A: でも学部４つもあるんでしょ？

会話３の①と②から、JF1A は２年生、JF1B は１年生で、「学年」が異なることがわかる。松村・因（2001）で指摘されるように、先に普通体に変化させようと試みた人は上位者 JF1A である。JF1A は③「お、いいよね？ アメリカは。」と④「なんか。治安が悪いと思わない？」で普通体を用いた。下位者である JF1B は上位者 JF1A に合わせて⑤「なんかぬいぐるみって感じなの。」と⑥「ほんとうに？」で上位者の普通体に合わせている。その後も JF1B は JF1A のスピーチレベルに合わせて普通体を用い、２人の基本的スピーチレベルには普通体が選択された。上位者である JF1A は、下位者である JF1B が普通体を用いることに対して指摘せず、２人は「同学年」であるかのように会話を続けている。この例からは、日本人大学生は基本的スピーチレベルを選択する際に「学年」という基準を優先するが、それは絶対的基準ではないと言える。

4.2.2 韓国人大学生にとって「年齢」は絶対的な選択基準である

韓国人大学生７組中６組は「年齢」、１組（KF9）は「学年」を基準に基本的スピーチレベルを選

択した。「学年」を基準にしたKF9の２人は「年齢」については言及せず、「学年」のみを確認した後に基本的スピーチレベルを普通体に変えた。「学年」と「年齢」の双方が確認された韓国人大学生同士の会話では、「年齢」に関わる複数の情報が確認されたことから、KF9の２人は「学年」に相応する「年齢」であると考えられる。このように、韓国人大学生同士の会話で会話参加者２人の年齢が同じ場合は２人がともに普通体を選択し、年齢が異なる２人の場合は上位者が普通体、下位者が丁寧体を選択している。しかし、上下関係と見られる１組（会話６）の会話で、２人がともに普通体に変えた会話が存在した。この場合、韓国人大学生の会話では上位者が下位者に「普通体にして」などと言語的に明示している。韓国人大学生は互いの「年齢」をもとに基本的スピーチレベルを選択すると言えるが、年齢が異なる場合、上位者の許可のもとに普通体が選択されることもある。このように、韓国人大学生同士は互いの「年齢」を基準にして基本的スピーチレベルを選択している。しかし、その基準は単純な「年齢」ではない。韓国人大学生は「年齢」に関わるさらに詳細な情報をもとに、上下関係が同等関係になることや同等関係が上下関係になることもある。以下、韓国人大学生同士の基本的スピーチレベルを選択する際の具体的な言語行動を観察する。会話４と会話５では「早生まれ」、会話６では「住民登録上の記載」が言及されることによって基本的スピーチレベルが選択される。

(1) 早生まれの場合

韓国には「早生まれ」の制度（2009年廃止）があった。その制度では、小学校の就学基準日は３月１日で、それより前の１月と２月に生まれた人は前年の３月から12月に生まれた人と同級生になる。韓国では通常「年齢」が重視されるが、「早生まれ」の場合、小学校の就学基準日にしたがうと、前年度の３月から12月生まれた人と同等関係になる。会話４は、生まれ年が異なる２人が「早生まれ」によって同等関係になる場面の会話である。

【会話４】

KF8A: 언니 몇 살이세요?（お姉さん、何歳ですか。）
KF8B: 저 스물 한 살인데요.（私、21歳なんですけど。）
KF8A: 스물 한살요? 78년?（21歳ですか？ 78年？）
KF8B: 네. 78년요.（はい。78年生まれです。）
①→KF8A: 전 79년 생인데요. 학교 일찍 들어 갔거든요.（私は79年生まれですけど。早生まれなんですよ。）
②→KF8B: 아… 말 놔도 돼요.（あ…普通体にしてもいいですよ。）

KF8Bは1978年生まれ、KF8Aは1979年生まれで、生まれた年が異なる。そのため、通常なら２人は年齢が異なるが、KF8Aが①「전 79년생인데요. 학교 일찍 들어 갔거든요.（私は79年生まれですけど。早生まれなんです。）」と自分が早生まれであることを明かした。この発言の後に、KF8Bは②「아… 말 놔도 돼요.（あ…普通体にしてもいいですよ。）」と述べ、KF8Aを同年齢として認めている。この会話例からは、韓国では早生まれの場合、小学校の就学基準日にしたがって、前年度の３月から12月に生まれた人と同等関係が認められることが分かる。KF8AとKF8Bは同等関係として落ち着くと思われたが、会話を続けるうちに、KF8Bも早生まれで、KF8Aより入学年度が１年早かったことが明かされた。

【会話５】

KF8A: 2학년? 아…（２年生？ ああ…）

KF8B: 〈웃음〉 저 3학년이에요. 〈웃음〉（〈笑い〉私３年生です。〈笑い〉）

②→KF8A: 그냥 말 놓고 해요? 그냥.（普通体にしましょうか？）

③→KF8B: 안 해요. 〈웃음〉 안 해요. 말 놓고 해요? 말 놓고 하자.（しません。〈笑い〉しません。普通体にしましょうか。普通体にしよう。）

KF8A: 그냥 이러고 있다가 가면 되는 건가?（このまましていて帰ればいいのかな？）

〈中略〉

①→KF8B: 그러면 너도 생일이 2월달이겠다. 나도 생일이 2월이거든. 그래서 1년 일찍 들어간 거야. 난 또 편하게 얘기하자고 그러려고 했더니… 〈웃음〉（それじゃ、あなたも２月生まれなんだろうね。私も２月生まれなんだよ。だから１年早く入ったんだ。私は気楽に話そうと、そうしようとしていたのに…〈笑い〉）

④→KF8A: 〈웃음〉 언니라고 불러야죠? 왜냐면 내 밑에 애들이 언니라고 안 부르면 안되니까… 나도.（〈笑い〉お姉さんと呼ばないといけないでしょう？ なぜなら、私より年下の人がお姉さんと呼ばないといけないから…私も。）

⑤→KF8B: 때려야 돼. 〈웃음〉[6]（叩かないと。〈笑い〉）

会話４で KF8A は早生まれで KF8B と同年齢として認められたが、会話５の KF8B の発話①「그러면 너도 생일이 2월달이겠다. 나도 생일이 2월이거든. 그래서 1년 일찍 들어간 거야. 난 또 편하게 얘기하자고 그러려고 했더니… 〈웃음〉（それじゃ、あなたも２月生まれなんだろうね。私も２月生まれなんだよ。だから１年早く入ったんだ。私は気楽に話そうと、そうしようとしていたのに…〈笑い〉）」が示すように、実は KF8B も早生まれであるため、２人は実質的に１歳の差があることが判明した。その結果、基本的スピーチレベルとして KF8A は丁寧体、KF8B は普通体を選択した。このように、韓国語の会話では早生まれという情報が相手との基本的スピーチレベルを選択する際に言及され、２人の同等関係、あるいは上下関係を決める重要な情報であることが分かる。

会話５の韓国人大学生同士の会話では、日本人大学生同士の会話には見られない特徴が２点ある。まず、韓国人大学生には、年齢が近い相手に対して同等関係か上下関係かを明確にしようとする強い意志が見られる。KF8A は②「그냥 말 놓고 해요? 그냥.（普通体にしましょうか？）」と述べてお互いの基本的スピーチレベルを普通体にすることを提案したが、KF8B は③「안 해요. 〈웃음〉 안 해요.（しません〈笑い〉しません。）」と２度拒否する。このように、韓国人大学生は１歳という近い年齢差でも上下関係にこだわる。このような韓国人大学生の言語行動は、学年違いの下位者の普通体が容認される日本人大学生の事例とは対照的である。次に、韓国人大学生同士の上下関係の場合、上位者に対する「언니（お姉さん）」という呼び方が見られることである。김광순（2015）は、韓国語でも日本語の「名前＋さん」のような「名前＋씨」という呼び方があるが、時間が経つにつれ「형（お兄さん）」「오빠（お兄さん）」「누나（お姉さん）」「언니（お姉さん）」[7]のような呼び方に変わる可能性があり、またこのような呼び方は韓国語の特徴であると述べている。会話５の④で KF8A は「언니라고 불러야죠? 왜냐면 내 밑에 애들이 언니라고 안 부르면 안되니까…나도.（お姉さんと呼ばないといけないでしょう？ なぜなら年下の人がお姉さんと呼ばないといけないから…私も。）」と言い、⑤で KF8B は「때려야 돼. 〈웃음〉（叩かないと。〈笑い〉）」と反応している。これらの発話からは、ともに下位者が上位者を「언니（お姉さん）」と呼ばない行為に対して良い印象を持たない様子が見られ、

双方が上位者に対する呼び方にこだわっている。韓国人大学生の上下関係の初対面会話では、基本的スピーチレベルを選択する際に「呼び方」も同時に選択される。このように、韓国人大学生同士の会話では、基本的スピーチレベルに加えて「呼び方」にも２人の上下関係が現れる。

(2) 実際の生まれ年と住民登録上の記載が異なる場合

日本でも韓国でも、子供が出生したら役所に行って出生届を提出する。韓国語の会話で基本的スピーチレベルを選択する際、出生届により住民登録証[8]に記載されている生まれ年に言及する場面が存在する。会話６は、住民登録に記載されている生まれ年に言及して相手との基本的スピーチレベルが選択される会話である。

【会話６】

KF1A: 안녕하세요. 하하. 어디에서 오셨어요? 저 처음 보거든요.（こんにちは。ハハ。どこからいらっしゃいましたか？ 私は初対面だと思いますけど。）

KF1B: 아 저 I 과세요?（あ、あの I 科でしょうか？）

KF1A: 네. 저 I 과 2학년이에요.（はい。私は I 科、２年生です。）

KF1B: 저 C 과 2학년인데요.（私、C 科、２年生なんです。）

〈中略〉

KF1A: 아아. 2학년이세요?（ああ。２年生でしょうか？）

KF1B: 네.（はい。）

KF1A: 아아 같은 학년이구나…C 과며느은…저 일어를 좀…일어를→？（ああ、同じ学年なんだ…C 科だったら…あの日本語を…日本語を→？）

〈中略〉

①→KF1A: 성격은 솔직히 선천적은 아니라고 하잖아요. 후천적이라고 하니까. 해야죠. 내 스스로 노력을 많이 해야죠. 그럼 78년생이예요. 지금? 원래 78년생 이거든요. 근데 주민등록상에79로 되어 있어요. 근데 더 좋아요. 그게. 나이는 덜 먹을수록 좋은 거니까.78년생이예요 ### 만화 좋아하세요?（性格は率直にいうと先天的ではないというじゃないですか。後天的と言われているから。しないといけないですよ。私が自ら努力をたくさんしないといけないですよ。じゃ、78年生まれですか。今？ もともと78年生まれなんです。でも住民登録上には79になっています。### 漫画好きですか？）

KF1B: 만화요?（漫画ですか？）

〈中略〉

②→KF1A: 근데 이렇게 존댓말 (?) 할 필요 없지 않을까요? 같은 학년이니까（ところでこんなに丁寧体で話す必要はないと思いませんか？ 同じ学年だから。）

KF1B: 말놔? 허.（普通体にする？）

KF1A: 놔아.（普通体にしよう。）

③→KF1B: 그러자. 어허허.（そうしよう。ハハハ。）

④→KF1A: 어 제가, 내가 언니라고 하는게 나을 것 같애. 아니면 그냥 이름 부르는 편한거.（私が、私がお姉さんと呼んだ方が良いと思う。それとも名前で呼ぶ…楽な方で。）

⑤→KF1B: 지금은 그냥 서로 그냥 말 놓고 나중에 혹시 보게 되면…그냥 그게 되니까…허허그냥 이름으로…그땐 누구누구 언니（今は互いに普通体にして今度もしまた会うようになったら…なんと

なくそうなるから…ハハ。なんとなく名前で…そのときはだれだれお姉さん。)

KF1A: 지금은 막, 이름이 그러면→？（今はそうしたら、名前がそうしたら→？）

KF1B: 자경이 KF1B.（チャギョン KF1B。）

KF1A: 아, 자경이 언니구나. 내 이름은 은정 KF1A.（あ、チャギョンお姉さんなんだね。私はウンジョン。）

KF1B: 은정?（ウンジョン？）

KF1A: 어. 자경이 언니.（うん。チャギョンお姉さん）

KF1B: 그래. 허허허허.（そう。ハハハハ。）

KF1A: 아 만화, 좋아…좋아해?（あ、漫画、好…好き？）

KF1B: 만화?（漫画？）

⑥→KF1A: 그냥 언니라 할게요.（やっぱりお姉さんと呼びますね。）

〈中略〉

KF1A: 언니 근데 학교생활 어때? 지금 거의 반…아직 안됐나?(お姉さん、ところで学校生活どう？今ほぼ半…まだなってないかな？)

KF1B: 그치 거의 반 다 돼가는 거지. 내년에 3학년인데 야! 어유 끔찍해.(そうでしょ。ほぼ半分担っていることだよ。来年3年生なんだけど、いや！恐ろしい。)

KF1A は①で「원래 78년생 이거든요. 근데 주민등록상에79로 되어 있어요.(もともと78年生まれなんです。でも住民登録上には79になっています。)」と述べ、住民登録上の生まれ年が実際の生まれ年と異なることを明かした。KF1A が初対面の相手に住民登録上の生まれ年を明かした理由は、KF1A が実は相手と同年齢であることを示したかったためだと思われる。また KF1A は②で「근데 이렇게 존댓말 (?) 할 필요 없지 않을까요? 같은 학년이니까.（ところで丁寧語で話す必要はないと思いませんか？ 同じ学年だから。)」と述べ、お互いの基本的スピーチレベルを普通体にすることを提案する。それに対して KF1B は③「그러자. 어허허.（そうしよう。ハハハ。)」と同意した。その後、2人の基本的スピーチレベルには普通体が選択された。ここまでの会話では、2人は同等関係に合意したようにみえる。しかし、KF1A は④「어 제가, 내가 언니라고 하는게 나을 것 같애. 아니면 그냥 이름 부르는…편한거.（私が、私がお姉さんと呼んだ方が良いと思う。それとも名前で呼ぶ…楽な方で。)」と述べ、相手の呼び方について同等関係として名前にするか、あるいは上下関係として呼び方にするかを相手に質問している。KF1B は⑤「지금은 그냥 서로 그냥 말 놓고, 나중에 혹시 보게 되면…그땐 누구 누구 언니.(今は互いに普通体にして今度もしまた会うようになったら…なんとなくそうなるから…ハハ。そのときはだれだれお姉さん。)」と、基本的スピーチレベルは普通体にするが、呼び方は「언니 (年上の女性)」と呼ぶようにと答えた。KF1A は KF1B の意図を読み取り、⑥で「그냥 언니라 할게요.（やっぱりお姉さんと呼びますね。)」と答え、基本的スピーチレベルは普通体、呼び方は上下関係を表す「언니 (お姉さん)」が選択された。

会話6の2人は、実際の年齢を適用すると同等関係になり、住民登録上の生まれ年を適用すると上下関係になる。そのため、互いの「学年」や「生まれ年」などに言及し、どちらを適用するかについて話し合った。結局住民登録上の生まれ年を適用することになり、2人は上下関係として決定され、それは呼び方に現れることとなった。このように、上位者の許可がある場合、下位者の基本的スピーチレベルを上位者と同じ普通体に変更できる。また、会話6でも上下関係の呼び方について言及された。会話6の上位者 KF1B は下位者 KF1A に基本的スピーチレベルを普通体にすること

は許可しているが、呼び方は上下関係を表す「언니（お姉さん）」を選択するように述べている。韓国人大学生は、一歳、あるいは数ヶ月という小さい年齢差がある場合でも、「年齢」という絶対的基準に沿って、同等関係あるいは上下関係を決める。また、上下関係になった場合、上位者の判断によって相手の基本的スピーチレベルと呼び方が決まる。

5．考　察

分析の結果、日本人大学生と韓国人大学生が基本的スピーチレベルを選択する際の基準と言語行動の異なる部分が明らかになった。基本的スピーチレベルを選択する基準は、日本人学生同士の会話では主に「学年」、韓国人大学生同士の会話では「年齢」である。日本人大学生には「学年」は絶対的な基準ではなく、韓国人大学生には「年齢」は絶対基準として働いている。基本的スピーチレベルを選択する際、日本人大学生同士の会話では異学年同士の会話で同学年のような言語行動がみられ、韓国人大学生同士の会話では「年齢」に関わる諸情報に複数言及し、同学年でも上下関係になることがあった。日本人大学生と韓国人大学生のこのような異なる基準と言語行動は、それぞれの社会や文化で無意識に行われる「わきまえ（Discernment）」[9] である。しかし、日本人大学生と韓国人大学生を対照すると、それぞれは相反する特徴であることから、お互いの文化や社会理解が必要な部分だと言える。以下、日本人大学生と韓国人大学生が基本的スピーチレベルを選択する際、相反する言語行動がみられる原因について考え、異なる基準と異なる言語行動から生じる諸問題について述べる。

5.1　基本的スピーチレベルを選択する際、相反する言語行動がみられる原因

日本人大学生と韓国人大学生が基本的スピーチレベルを選択する際、相反する言語行動がみられる原因として、2点指摘することができる。1点目の原因は、両言語間で基本的スピーチレベル（対者敬語）に対する考えが異なることである。荻野（1995：27）は、日本語と韓国語の聞き手に対する敬語行動について、「韓国語は上下を基準とする性格が強いがそれと比べると日本語は親疎を基準とする面が強い」と述べる。한길（2002：20）は、韓国社会で敬語を用いる際には親疎よりも上下が優先されると主張する。これらの先行研究から、大学生同士が基本的スピーチレベルを選択する際にも、日本人大学生は相手との「親疎」、韓国人大学生は相手との「上下」を意識して行動すると言える[10]。この考え方にしたがうと、日本人大学生同士の会話では、同じ学年「学年」が異なる場合でも「親」と判断される相手とは基本的スピーチレベルとして普通体を選択できる。そして、韓国人大学生は、相手と「年齢」が異なる場合、相手と自分が同等関係なのか上下関係なのかを明確にするために、「年齢」に関する様々な情報を求めることも理解できる。

2点目の原因は、両言語間の相手に対する呼び方が異なることである。김광순（2015：177）は、韓国語母語話者が初対面の相手に年齢に関する複数の情報を確認する言語行動について、「상대방의 나이가 궁금한 것이 아니라 인간관계의 지속에 필요한 호칭을 정리하기 위한 의도가 포함되기에 이를 큰 실례라 여기지 않는다.（相手の年齢が知りたいのではなく、人間関係の持続に必要な呼び方を整理するための意図が含まれるため、失礼な行為とは考えられないのである）」と述べる。韓国人大学生同士の会話では、「年齢」に関する様々な情報は初対面相手との基本的スピーチレベルと呼び方を決めるために用いられた。一方、日本人大学生同士の会話では、初対面の相手に対する呼び方について言及する場面はなかった。会話6の上位者は下位者に対して、基本的スピーチレベルは普通体に変更す

ることを許可したが、呼び方は上下関係を表す「언니」と呼ぶことを提案している。日本人大学生同士は、会話参加者２人の学年が異なっても基本的スピーチレベルと呼び方は対等なものであり、その２人は同等関係であると言える。それに対し、韓国人大学生同士は、会話参加者の２人の年齢が異なる場合、上位者の許可によって基本的スピーチレベルは対等なものになるが、呼び方には上下関係が示されるため、韓国人大学生は「年齢」が異なる相手とはいつになっても同等関係にはなれないと言える[11]。

5.2　異なる基準と異なる言語行動から生じる諸問題

日本人大学生と韓国人大学生が基本的スピーチレベルを選択する際、異なる基準と異なる言語行動がみられることによって生じる問題として３点指摘することができる。１点目と２点目に日本人大学生と韓国人大学生が会話する際の問題、３点目に研究者の誤った基準設定によって生じる問題について述べる。

１点目は、日本人大学生と韓国人大学生が会話する際、異なる基準によって問題が生じる可能性がある。本稿の会話資料では、日本人大学生同士は主に相手の「学年」、韓国人大学生同士は相手の「年齢」を基準に基本的スピーチレベルを選択した。例えば、同学年だが年上の韓国人大学生と年下の日本人大学生が会話する場合、日本人大学生は韓国人大学生に対して普通体を選択するだろう。しかし、韓国人大学生は年齢を基準に考えているため、年下の日本人大学生の普通体に良い印象を持たないと考えられる。反対に、同学年だが年上の日本人大学生と年下の韓国人大学生が会話する場合、韓国人大学生は日本人大学生に対して丁寧体を維持すると考えられる。このような場合、日本人大学生は学年を基準に考えているため、同学年の韓国人大学生からの距離感を感じ、親しくなれないと思われることもあろう。

２点目は、日本人大学生と韓国人大学生が基本的スピーチレベルを選択する際の異なる言語行動によって問題が生じる可能性がある。日本人大学生同士の会話では、異学年同士の会話で同学年のような言語行動がみられた。また、伊集院（2004）は、日本人大学生の初対面場面での基本的スピーチレベルについて、初対面の相手が日本人大学生の場合は失礼にならないように丁寧体を用いるが、相手が留学生であることがわかったらすぐに普通体に変更するという。日本人大学生が留学生に対してすぐ普通体を用いることについて、「距離を置かない」、「わかりやすい」などの理由が述べられている。このような理由は、日本人大学生の留学生に対する親近感の表出や配慮とも言えるが、その相手が韓国人留学生の場合は問題が生じると推測できる。韓国人大学生同士の会話では「年齢」に関わる諸情報に複数言及し、１歳という近い年齢差でも、上下関係にこだわるためである。田所（2014）は、韓国人留学生が、初対面の日本人母語話者に突然普通体で話されるなどの韓国語とは異なる日本語のスピーチレベル使用に戸惑いを感じたと述べている。反対に、日本人大学生は、相手の年齢に関する情報を複数確認する韓国人大学生の言語行動に対してよくない印象を持つのだろう。奥山（2005：77）は、初対面会話で相手にたくさん質問する韓国人大学生の言語行動について、日本人大学生が「韓国人は矢継ぎ早に質問する詮索好きな人たち」と思う可能性があると述べた。韓国人大学生にとって相手の年齢を複数質問する言語行動は相手との関係持続のために欠かせないものだが、日本人大学生は韓国人大学生に失礼さを感じると考えられる。このように、日本人大学生と韓国人大学生の初対面の会話での言語行動は大きく異なる。そのため、円滑な関係づくりのためには、お互いの社会や文化の理解が求められる。

３点目は、研究者の誤った基準設定によって研究結果に問題が生じる可能性がある。先行研究で

も述べたように、日本人研究者と韓国人研究者が設定した日本語母語話者間の同等関係と上下関係には違いが見られた。ある研究では同等関係として設定された2人が、別の研究では上下関係になる。また逆に、対照研究において日韓両言語で同基準を定めたことで、求めた結果が見られないものもあった。申媛善（2007）は、日本人大学生と韓国人大学生の同等関係でのスピーチレベルを調べるため、日本人大学生と韓国人大学生の「学年」と「年齢」が「できるだけ同等になるように」基準を設定したが、その結果、日本人大学生は基本的スピーチレベルを変化させたのに対し、韓国人大学生はスピーチレベルを変化させなかったと結論づけた。フォローアップインタビューでは、韓国人大学生が「相手が同じ年とはいっても早生まれであった。」（同上：179）と述べたことから、基準設定が重要であると言える。会話例4に見られたように、韓国語母語話者にとって早生まれの相手は同等関係ではなく上下関係になる可能性がある。このように、日本語と韓国語に限らず、同等関係と上下関係にふさわしい言語行動を観察するためには、それぞれの社会や文化を考慮し基準を設ける必要がある。

6．終わりに

日本語と韓国語は、ともに敬語があり、また敬語の体系や使用場面なども類似している。そのため、お互いの敬語学習や使用が他言語の話者より容易なのは事実である。しかし、類似していることが原因で間違いや誤解が生じることもしばしばある。基本的スピーチレベルの選択基準とその際の言語行動もその一例であろう。本稿では、相手との関係が始まる初対面という重要な場で、大学生同士の相手待遇という意味を持つ基本的スピーチレベルの選択基準に関する分析を行った。その結果、日韓両大学生の基本的スピーチレベルの選択基準と言語行動には、共通点と相違点が見られた。本稿では大学生同士の初対面場面に限定して分析を行なったが、非初対面場面、また大学生ではなく社会人の場合といった、他のコンテクストでは異なる部分もあると考えられ、これは今後の課題とする。

注

1　九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程

2　本稿では、日本語について、文末に「です・ます」を含めたものに「丁寧体」、それ以外に「普通体」という用語を用いる。韓国語文末表現は6種類のレベルが存在するが、現代の話し言葉は2種類に分類される。서정수（1979）では「존대（尊待）」（hapsyo体、hao体、hayyo体）と「비존대（非尊待）」（hakey体、hayla体、hay体）」、野間（2012）は「경의체（敬意体）」（hapnita体、hao体、hayyo体）と「비경의체（非敬意体）」（haney体、hanta体、hay体）という用語を用いるが、ソウル方言では「존댓말」と「반말」という用語が広く使われている。本稿の執筆言語は日本語であるため、日韓両言語に「丁寧体」と「普通体」という用語を採用する。

3　宇佐美（1995）では大学院生に対して、同年齢の大学教官と4歳年上の大学教官を上位者として設定していることから，年齢差のみならず，「社会的立場」も話者間の同等関係と上下関係の差を生じさせる要因と見做していることが読み取れる。

4　서정수（1979）と野間（2012）などが指摘するように、現代韓国語の話し言葉ではhao体とhakey体（haney体）はあまり見られない。そのため、本稿では4種類の文体を文末形式として提示

する。また、文末表現に対する用語は研究によって少しずつ異なる。日本語の形式で提示した「デス・マス形式」と「ダ・デアル形式」に合う韓国語の文末形式を提示すると野間（2012）の「hapnita」、「hayyo」、「hay」、「hanta」が適切であると考え、これらの用語を用いる。

5　JM4は日本語の会話で「学年」と「年齢」の両方が示された唯一の会話である。その談話では、まず、JM4A が修士１年生であると自分の学年のみを提示したが、JM4B は自分の学年には触れず JM4A の年齢についても質問した。その後、JM4B は21歳で４年生だけど早生まれであるため来年22歳であると学年と年齢が合致しないことに自ら言及した。

6　KF8B は、上位者に対してお姉さんと呼ばない人がいたら「（本当にもう）叩くよ」、「叩いてやりたいよ」のような気持ちを伝えるために「때려야 돼 .〈웃음〉（叩かないと。〈笑い〉）」と笑いながら冗談のように話している。このような表現は日本語に直訳すると不自然だが、韓国語の会話では冗談の意味を込めたユーモアのある表現としてよく用いられる。

7　「형（お兄さん）」、「오빠（お兄さん）」、「누나（お姉さん）」、「언니（お姉さん）」という語は本来親族に対する呼び方だが、非親族に対しても用いられる。女性が使う呼び方には「（年上の女性に対する）언니 /（年上の男性に対する）오빠」が、男性が使う呼び方には「（年上の女性に対する）누나 /（年上の男性に対する）형」がある。

8　韓国におけるカード式の身分証明証である。住民登録証には国から与えられた番号、住所、生年月日などが記載されている。

9　井出（2006：113-114）は「人々は社会で生きていく上で適切な行動をとることが求められるが、『わきまえ』とはそのための社会基準ということができる」と述べる。

10　初対面の会話は通常「疎」の関係であると捉えられる。しかし、そのような場面でも相手との共通点や共感を持つことで「親」の関係になることもあり得る。初対面の会話を分析する三牧（2002：63）は「同学年であるという仲間意識と親しさを積極的に表示することをも重視し、働きかけた」と述べられ、伊集院（2004：20）でも「共通話題や共感による D（距離）の減少」と示される。本稿の会話資料は、初対面会話でも比較的長い40分という時間を設定している。また、会話参加者同士が大学生同士であるため、相手との共通点や共感による「親」の表出と思われる場面があった。

11　女性同士の会話では、年齢が異なる８組中７組に「언니（お姉さん）」という呼び方が言及された。男性同士の会話では、13組中６組に「형（お兄さん）」あるいは「선배님（先輩）」という呼び方が言及された。これに対し、日本語の会話では相手の名前が紹介されたすぐ後に「〇〇さん？」と名前を確認する場面はあったが、他に呼び方に関して言及することはなかった。

本稿の資料は以下のルールで文字化された。

1．時間の流れを５分ごとに区切り、データ中に示した。
2．疑問文のうち上昇イントネーションで終了するものは、「？」のみ示し、「↑」は省略した。
3．疑問文のうち平坦イントネーションで終了するものは、「→？」とした。
4．周辺言語情報は各発話の後ろに〈笑〉などと記した。また、はっきりと単音が聞こえるものは「あはは」のように示した。
5．１秒から３秒までの沈黙を〈短い沈黙〉、４秒から６秒までの沈黙を〈やや長い沈黙〉、７秒以上の沈黙を〈長い沈黙〉とした。
6．聞き取り不能な部分は「###」で示した。

7．あいづちと判断されたものは「(ああ)」のようにできる限り組み込んだ。
8．ひとり言にも「？」を付加した。

参 考 文 献

李恩美（2008）「日本語と韓国語の談話におけるスピーチレベル・シフトとポライトネス」『일본언어문화학』13，207-226
伊集院郁子（2004）「母語話者による場面に応じたスピーチレベルスタイルの使い分け ── 母語場面と接触場面の相違 ──」『社会言語科学』6（2），12-26
井出祥子（2006）『わきまえの語用論』大修館書店
宇佐美まゆみ（1995）「談話レベルから見た敬語使用 ── スピーチレベルシフト生起の条件と機能 ──」『学苑』647，37-47
奥山洋子（2004）『이렇게 다르다！한국인과 일본인의 첫 만남의 대화：부록 한일양국의 남녀 대학생 42쌍의 첫 만남의 대화（40분간）오쿠야마요오코 / 이즈미지하루자료』보고사
奥山洋子（2005）「話題導入における日韓のポライトネス・ストラテジー比較 ── 日本と韓国人大学生初対面会話資料を中心に ──」『社会言語科学』8（1），69-81
荻野網男・金東俊・梅田博之・羅聖淑・盧顕松・福田麻子（1990）「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』136，1-51
荻野網男（1995）「21世紀の敬語表現はどうなるか」『国文学』40（14），26-30
김광순（2015）「친족어의 호칭어로서 확장・사용양상 ──『형』，『누나』，『오빠』，『언니』를 중심으로 ──」『한국어 의미학』48，175-201
金珍娥（2002）「日本語と韓国語に置ける談話ストラテジーとしてのスピーチレベルシフト」『朝鮮学報』183，51-91
申媛善（2007）「日本語と韓国語における文末スタイル変化の仕組み ── 時間軸に沿った敬体使用率の変化に着目して ──」『日本語科学 / 国立言語研究所［編］』22，173-195
서정수（1979）「사회구조 변동과 한국어 경어법 추이」『성곡논총』10，186-221
田所希佳子（2014）「『会話者意識』を用いた意識化促進のためのコミュニケーション教育：スピーチレベルに関する授業実践を例に」『早稲田日本語教育実践研究』2，65-79
辻村敏樹（1977）「日本語の敬語の構造と特色」『岩波講座日本語 4（敬語）』岩波書店，45-92
한길（2002）『현대 우리말의 높임법 연구』역락
野間秀樹（2012）「待遇表現と待遇法を考えるために」『韓国語教育論講座　第2巻』くろしお出版
松村瑞子・因京子（2001）「日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果」『平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2）研究成果報告書：日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析）』
三牧陽子（2002）「待遇レベル管理からみた日本語母語話者間のポライトネス表示 ── 初対面会話における『社会的範囲』と『個人のストラテジー』を中心に ──」『社会言語科学』5（1），56-74

대학생들의 청자 대우에 관한 한일대조연구

――기본적 스피치레벨을 선택할 때의 대화를 중심으로――

김 태연・마쓰무라 요시코

본 연구에서는 한국인 대학생들과 일본인 대학생들의 기본적 스피치레벨을 대조, 분석하였다. 연구 결과, 두 언어간의 청자 대우의 차이가 있음이 밝혀졌다.

먼저, 한국인 대학생들과 일본인 대학생들은 청자를 대우하는 기준이 다르게 나타났다. 한국인 대학생들은 청자의 '나이'를, 일본인 대학생들은 주로 청자의 '학년'을 기준으로 하였다. 이 때, 한국인 대학생들은 서로의 학년과 나이, 태어난 해, 학번 등의 구체적인 정보를 여러 번 확인한 반면, 대부분의 일본인 대학생들은 서로의 학년만을 확인하였다.

또한, 일본인 대학생들의 대화에서는 학년이 낮은 학생이 학년이 높은 학생의 허가없이 자신도 비 존대 형식 (반말) 을 취하는 경우가 있었는데, 이러한 언어 행동은 한국인 대학생들의 언어 행동과는 대조적이라고 할 수 있다. 한국인 대학생들의 경우, 상대와 자신이 같은 학년이라는 것을 확인한 후에도, 서로의 나이와 빠른 생일, 주민등록상의 생년월일까지 언급하여, 나이가 많은 학생은 비 존대 형식 (반말), 나이가 적은 학생은 존대 형식 (존댓말) 을 취하였기 때문이다.

위에서 언급한 한국과 일본의 대학생들의 언어 행동은 각각의 사회와 문화에서는 무의식적으로 행해지는 자연스러운 모습일 것이다. 그러나, 서로를 대조하여 분석한 결과, 서로 다른 언어적 특징으로 부각되었다. 이러한 차이점은 한일양국의 대학생들의 첫만남에서 서로의 이해와 주의가 필요한 부분으로 보여진다.